体の幸福なる事を知つて居ります。既に従業員は此因島の平和の壊乱者を懲らし、以て真の平和と安寧とを確立せねばならぬの覚悟であります。故に今後此問題が幾日続くか計られませんが、たとへ百日を経てもたとへ一家全体飢に喘ぎ付いても、會社が人としての人の道に眼醒むる迄、今の結束を緩めるものではありません。否、一歩も退くものではありませぬ。

茲に今日迄の私共の衷情を訴へ、正義を愛し、義侠心に燃ゆる吾が因島町民の皆様の御同情御後援を伏して希ふ次第であります。

大正十三年六月十四日

大阪鐵工所因島工場

土生 三庄 両工場争議團

かくて争議團は午後一時より大正座に於て大阪鉄工所因島工場争議批判大演説会を開催し、警察官の横暴圧迫を詰り大阪鐵工所の暴虐、工場長並に工場幹部を攻撃し、斯る暴戻なる大阪鉄工所及び幹部は宜敷因島外に駆逐し、工場占領と之が管理の実権を獲得せざる可からずと論じ是迄中間に立ちし仲裁人及び町會議員は何

れも工場に買収せられたる者にて何等其効を奏せず、吾等は斯くして空しく旬日の日子を空費せしめたり。吾人は最早彼等の籠絡手段に瞞着せらるゝ者に非らず、愈々進んで吾等の所信を断行する時期到来せりと叫び、大に膺懲の実を挙げざるべからずとなせり。

右の如く彼等煽動者等の説く處は氏の同情を得んが為めには事実を捏造して特に悲哀の言語を連ね、一面工場の態度を罵倒し、然も吾等之皆彼等争議屋の慣用手段たるなり。

見よ欧米諸国に於ては現に此大不況を拯救せんが為めに盛んに労働賃銀の引下げを断行し、労働者も又国家産業不況の打開上止むを得ざるものとして之に同意しつゝ不景気を不景気と知る彼等の訓練、彼等の高潔なる理想、彼等の国家産業を思ふの熱誠以て他山の石たるべきか。

争議團代表の一人が言ふが如く、會社は潰れても如何でも吾等の関する處に非らず、吾等さへ良ければ他はどうでも構はぬと云ふ如き言辞を吐くに至りては[illegible]利己主義は財界